

清原 伸彦氏の講演

開催日時：9月13日（土）18：30～20：15

開催場所：岡崎せきれいホール

テーマ：「感動！人はなぜ美しく行動できるのか」

～集団行動と人づくりの極意～

清原氏の演出する「集団行動」

隊列を為して規則正しく進みながら、行動する者同士が一切ぶつかることがないという計算しつくされた美しい行動の動き。約10万歩を超える過酷な練習の中で、周りとの均衡を保ちながら最高のパフォーマンスに仕上げる清原氏の指導力は、チームワーク構築、組織力向上のためのヒントに溢れています。

清原 伸彦氏の紹介

日本体育大学名誉教授／学校法人武相学園 理事

公式戦21年間無敗376連勝という記録のある水球の指導者、清原伸彦氏。

現在、清原氏の代名詞は、一糸乱れぬ動きで複雑に交差する「集団行動」です。

今年のソチパラリンピック閉会式の演出指導も話題となりました。

教員経験51年

主催者の選定理由

時代の速さについていくためには、個の力では対応できないと考え、今回選定した。「集団行動」人を想う気持ちが力に成る。

講演内容抜粋

<講演の構成>

自分の生い立ち⇒想いと使命⇒内容⇒考え方

- ・監督の求めるもの、「心」と「意識」
- ・人を思いあい、助け合おう
- ・子ども達に返す、これが早くに亡くした母親に対しての使命
- ・リーダーはどうあるべきか？ 親はどうあるべきか？
- ・人の人格を大切にす。生意気な子どもは許さない。
- ・情熱をもって、持っている人格を大切にす。
- ・西洋と日本の違い 西洋：自我と知識 日本：無我と知恵 ⇒ 人を磨く
(江戸時代の寺子屋)

※自我とは、自分に合わないをやめ、新しいことをやり、自分を磨く

- ・「畏敬の念」と「謙虚」⇒お互い共存共栄

畏敬の念とは、崇高なものや偉大な人を、おそれうやまうこと。

- 夏休み、冬休みは家族とのコミュニケーション
- 学校は、学びに行くところ
子どもは子どもの24時間、社会人は社会人の24時間
8時間 学校 + 8時間 睡眠 + 8時間自由（予習、復習、好きなこと）
けじめをつけること
- 生徒には、年代に応じた子どもに教えていない。
- 年代に応じた子どもに教えることが大事。
- ほめて言い聞かせる。自信をもたせる。こころがある。
- 人間には、感情、煩悩、慾、理性、感情がある。
煩悩：個人で考え、個人で行く主観。
本能、知的財産。成長の生理現象
- 客観的に見る人が必要。
- 人間は立場・立場で役割がある。同じことをしてはいけない。
- この仕事に命を捧げる。
- オーケストラが象徴している。
- 人間のあり方 真剣にやる。能力を見極める。行動する。
知恵、知識は育つ
- 子ども達を育てながら自分を磨いてほしい。
- 小泉 慎三 3つの宝より
第1の宝「練習は不可能を可能にするという体験」
(練習を重ね、できなかったことができるようになる)
第2の宝「フェアプレーの精神」
(正しく戦え、卑怯はするな、無礼はするな)
第3の宝「友」
(何でも言える友、何を言っても誤解されない友、喜びも苦しみも分かち合える友、生涯の友) 親友をつくれ 共存共栄

明治21年、かつて塾長をつとめたことのある小泉信吉を父として東京市芝区三田に生まれる。

慶應義塾普通部を経て明治43年3月、大学部政治科を卒業し、大学部教員となって大正元年9月経済学および社会問題研究のため、イギリス、ドイツに留学。

大正5年3月帰朝後は、同9年4月に経済学部教授となり、13年1月図書館監督、昭和6年4月高等部講師兼ね、ついで同8年11月には選ばれて塾長に就任、以来22年1月退任にいたるまでの13年余の長期にわたり塾務につくした。昭和9年6月経済学博士。同14年藤原工業大学の設立に際し学長を兼ね、18年11月帝国学士院会員となる。

昭和20年5月、戦禍をうけて負傷したが、戦後昭和24年には東宮御教育常時参与に任ぜられまた昭和29年6月米国コロンビア大学人文学名誉博士号贈与される。慶應義塾に関しては、同25年以

来評議員に選ばれ、特に 33 年 11 月からは同会議長に推され、また、31 年 3 月大学名誉教授に就任、学事顧問を嘱された。

昭和 34 年 11 月、文化勲章を授与される。

昭和 41 年 5 月 11 日没。78 才

- 出合いを大切に、出合いは奇跡、運、運命となる
- 自分に与えられたもの。
- 心が裕福だと、ゆとりができる。
- 個人、個人能力をもっている。自信をもつ。
- 自己中心はだめ。
- 1. 5 秒で 2 歩半歩く。 140 人が 70 人になる。
- 人間は、順応性の能力がある。
- チームには、1 番にリーダーが大切、2 番にスピード（スピーディーに物事をする）、3 番に礼儀・礼節（礼節をもって礼儀をする）
- 規律、緊張が大切。但し、自由を与える。そして冷静に判断する。
これらのバランス。
- 想い「子ども達に夢を」
- 目的⇒環境整備⇒計画⇒行動